ほぼ週刊コラム　Partnership論　その１７２

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』の振り返りと準備**

**第十九回勉強会（**[**年表**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20141003%20W113%20economic%20substance%20without%20profit/shiryou/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev8.ppt)**項目12：the economic substance doctrineのcodify）の準備（２）：**

**2016年度勉強会テーマ（案）**

**Corporate経済成長最大化に特化されたシャウプ税制を、**

**米国が日本に導入した1950年以降に、**

**当の米国自身に起きた税制改革とその効果をキチンと知ろう**

20160118　rev.1　齋藤旬

[**当勉強会の2016年度のテーマ（案）**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/COCN/2016/2016%20COCN%20study%20theme.doc)**をこの正月休みに作成した。上記のタイトルがそれ。**当勉強会常連の方には、言わんとするところがお分かりかもしれない。そう、1950年以降の世界の租税学進化を全く取り入れていない日本の租税学、即ち、1950年にシャウプに教えてもらった租税学を不磨の大典の如くに超えられないでいる日本の租税学に「喝！」を入れたい。というか、そもそも日本には、*Duo Sunt*（両権）を基本とする欧米で言うところのTax Theory（租税学）が無い。そういった日本の租税学の停滞状況を訴えたい。

日本の租税学の停滞状況を、ショック療法的に分かって頂くために「これぞ現代西洋の租税学」というものを、Catholic版、Judaic版、Evangelicals版の三つ、今週はチラッとお見せしよう。

**ドイツにイエズス会が運営する**[**Jesuitenweltweit**](http://www.jesuitenmission.de/en/home.html)**（Worldwide Jesuit　世界に広がるイエズス会）というカトリック社会思想研究所がある。**そこで[Tax Justice & Poverty](http://www.taxjustice-and-poverty.org)という研究が行われており、未だ予稿段階だが『カトリック社会教義に即した租税理論の枠組作り』：

[Setting the frame: Catholic Social Teachings’ (CST) relevance](http://www.taxjustice-and-poverty.org/fileadmin/Dateien/Taxjustice_and_Poverty/Ethics_and_Religion/General/01_Setting_the_frame.pdf)

[for the project Tax Justice & Poverty](http://www.taxjustice-and-poverty.org/fileadmin/Dateien/Taxjustice_and_Poverty/Ethics_and_Religion/General/01_Setting_the_frame.pdf)

というEssay執筆が進んでいる。この22 pageを見て頂きたい。ここでは経済学（economics）というものをキチンとHappiness Economics（幸福の経済学）と、Economics for the Common Good（共通善の経済学）に分けて租税理論の枠組作りをしていることが分かる。

　勿論、taxもこの二種類の経済学ごとに論考が加えられている。

　**1954年にPartnership Taxation Codeを完成させたユダヤ人租税学者Mark H. Johnsonの母校であるNYU（New York University）でも、国家・非国家並立社会の租税理論作りをしている**。例えば『[The Myth of Ownership: Taxes and Justice](http://www.amazon.co.jp/Myth-Ownership-Taxes-Justice/dp/0195176561/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1452826218&sr=8-1&keywords=Taxes+and+justice)』（邦訳は『[税と正義](http://www.amazon.co.jp/%E7%A8%8E%E3%81%A8%E6%AD%A3%E7%BE%A9-%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC-L/dp/4815805482/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1452826395&sr=8-1&keywords=%E7%A8%8E%E3%81%A8%E6%AD%A3%E7%BE%A9)』）が2002年に出版されている。英文原典の66 pageには：

Our original sovereignty over ourselves --- a moral given, not created by the state --- leaves us free to employ our capacities and implies that others have no right to interfere with that freedom, unless in using it we transgress the rights of others.

The state cannot change this. It is not a collective arrangement whereby we all own shares in each other, which we can exploit for the common good.

（拙訳）

私達が自分達に対して持つそもそものsovereignty（主権）とは、倫理に基づく所与のものであって国家によって作り出されたものではない。従って、capabilities（尊厳行為能力）の行使は私達のfreedomに委ねられており、他者のrights（権利）を侵害しない限り、他者はこの私達のfreedomへinterfere（干渉、介入）するrightsを持たない。

国家もこのことを変えることが出来ない。即ち国家とは、collectiveな取り決めではない。国家は、私達全員がお互いにshareし共通善のために利用する様な場ではないのだ。

･･･とあり、カトリック社会思想と同様に、国家への納税義務（tax liability）だけを規定しても、国家・非国家並立社会のtax theoryが完結しないことを示している。

**米国のEvangelicals（福音派キリスト教）でもTwo Kingdom theory（カトリックで言う*Duo Sunt*）に基づくTax Theory作りが進められている**。

例えば[コラム１３８](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2015/20150417%20W138%20lucky%20coinsidence%201977/20150417%20W138%20lucky%20coinsidence%201977%20rev1.doc)で紹介したSusan Pace Hamill --- 1990年代に米国内国歳入庁研究員としてLLC税制の制度設計に実際に携わり、現在はアラバマ大学で租税学と神学の教授を務めるSusan Pace Hamillは、2013年に論文：[Tax Policy inside the Two Kingdoms](http://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=2195639)を上梓し、2007年に『[*The Myth of a Christian Nation: How the Quest for Political Power is Destroying the Church*](http://www.amazon.co.jp/Myth-Christian-Nation-Political-Destroying/dp/0310267307/ref%3Dsr_1_1?s=english-books&ie=UTF8&qid=1452839406&sr=1-1&keywords=The+Myth+of+a+Christian+Nation%3A+How+the+Quest+for+Political+Power+is+Destroying+the+Church)』を出版したGregory Boydとともに、Two Kingdom theoryに基づくTax Theory作りを進めている。

**以上の知識を得てもう一度、**[**当勉強会の2016年度のテーマ（案）**](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/COCN/2016/2016%20COCN%20study%20theme.doc)**の【内容の概要】をお読み頂きたい**。そして、この新たな租税学を取り入れられないからこそ、日本は「失われた二十年」に苦しんでいるのだと感じて頂きたい。

今週は以上。来週も請うご期待。